

# 禁止の場面における現実の言語表現

## ——医師と美術館員の場合——

清　　ル　　ミ\*

キーワード: 現実の言語使用, 禁止, 自然発話, 医師, 美術館員

### 要　旨

本論は, 「コミュニケーション能力」, 「コミュニケーション」が日本語教育のキーワードとして浮上している現状を踏まえ, 今後の日本語教育の教育方法, 教材開発, 教員養成のあり方を探ることを前提に, 教科書と現実の言語使用の比較考察を行うものである。具体的には, 先行研究において禁止の機能としては使用されない可能性が明らかにされた「ないでください」(以下「な」と記す)を軸に, 「な」が禁止表現として扱われる場面・状況と提出されている表現を教科書から抽出し, それと同じ現実場面を選択して, 現実の自然発話データを採取する事例研究を行い, 教科書との比較考察を図った。

調査は, 医師が患者の行為を制する場面, 美術館員が写真撮影をしようとしている客を制する場面の2場面実施した。両場面における自然発話データは, 前者の場合は看護師に依頼し, 後者の場合は調査協力者が実際にカメラを構えることにより発話を引き出して採取し, 分析した。

その結果, 医師の場合は, 患者の生命に危険が及ぶ可能性の低い事項を禁ずる場合には共感性の高い心積もり依頼表現, 心積もり誘発表現, あたかも依頼表現の使用率が高く, 外科において患者を制しなければ患者に致命的な不利益を与える場合には, 肯定依頼表現, 断定宣告表現, 否定依頼表現の使用率の高いことが明らかになった。

一方, 美術館員の場合は, 100%が謝罪および呼びかけ表現を使用しており, 約半数が規則に関する事実陳述以外の禁止理由に言及し, 相手が納得しやすく相手の面子を傷つけないための配慮がみられた。また, 62%が動詞を使用せず言い切らない形式で相手に行動変容を促していた。動詞を使用した場合も, 写真を撮る立場に立っての不可能表現や, 注意する立場からの恩恵表現つき不可能表現が使用され, 相手への共感を示すことにより丁寧度の高い表現が使用されていた。医師, 美術館員いずれのケースも, 「な」の使用は1例もみられなかった。

本事例研究の結果から, ①「な」が禁止の機能として学習項目化されている現行の教材は適切ではない, ②禁止の場面においては相手の面子を傷つけない配慮表現が使用される, という二点について今後の教材開発に向けての教育的視点が見出せた。

\* SEI Rumi: 常葉学園大学教授。

## 0. はじめに

2000 年，日本語教育能力検定試験の出題範囲が「日本語教員養成において必要とされる教育内容」として公表された．それによると，従来なかった領域設定に際し「コミュニケーション」が核に置かれ，その下位分類である「言語に関わる領域」に「コミュニケーション能力」という区分が新たに組み込まれている（日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議報告 2000）．このように，現在，日本語教育界において，「コミュニケーション」や「コミュニケーション能力」が教育のキーワードとして浮上している．本研究は，このような教育志向に合った教育方法，教材開発，教員養成のあり方を探るための研究の一環として，現実に使用される言語表現が教科書に反映されているかどうかを検証しようとするものである．

具体的には，先行研究において，実際の言語使用と初級日本語教育における教科書の言語機能の不一致が指摘されている「ないでください」に着目する．そして，禁止することが当然のこととして話し手に許されている状況下で，話し手は現実にどのような表現を使っているのかを調査し，教科書のダイアログと現実の言語使用とを比較考察することを目的とする．

## 1. 序 論

### 1-1. 研究の視座

外国語教育における「コミュニケーション能力」の捉えられ方は，一般的に，社会言語学者 Hymes のコミュニカティブ・コンペテンスの概念（Hymes 1972）に基づくことが多い．また，Hymes の概念の構成要素を，文法能力，社会言語能力，談話能力，方略能力の 4 つに分類した Canale と Swain（Canale & Swain 1980, Canale 1983）の考え方も重要視されている．日本語教育においてもこの傾向は同様であり（谷口 2001），学習者の「コミュニケーション能力」を養成するという場合は，この定義が前提になっている．Hymes の「コミュニケーション能力」の定義は，コミュニカティブ・アプローチの潮流の中心として位置づけられた（Brumfit & Johnson 1979, Been & Candilin 1980, Johnson & Morrow 1981, Littlewood 1981）．

さらに，概念シラバスとファンクションシラバスの 2 つを合わせたノーショナルシラバスを提唱した Wilkins（1976）は，言語体系より機能の習得を重視し，伝達する意味内容を学習項目化することによりコミュニケーション能力は育成され则认为した．この考え方がコミュニカティブ・アプローチの理念を具現化させる方法論の基盤となった．日本語教育においても，畠（1989），市川（1989），岡崎・岡崎（1990），『日本語教育』73〔特集〕（1991）などで論じられているように，1980 年代後半から盛んにコミュニカティブ・アプローチが取り上げられるようになった．日本語教育現場においては，言語形式を重視するオーディオ・リンガル法中心の教育から，言語運

用を重視し適切な言語行動を誘導するための教育への転換が求められている。

また、コミュニケーション学者 Wiemman は、コミュニケーション能力を「相手と会っている間に、状況・場面の制約の中で相手の面子や体面を保ちつつ、自分の対人目的をうまく達成するべく可能なコミュニケーション行動の中から選択する相互作用する者の能力」と定義している (Wiemman 1977. 訳: 石井 1990 による)。これを基に、Spitzberg と Cupach は「効果性」と「状況・場面でのふさわしさ」をコミュニケーション能力の定義に加えている (Spitzberg & Cupach 1984)。

そこで、本研究では、以上のような背景を踏まえ、初級教科書が、コミュニケーション・アプローチに基づいた学習理念を実際に反映し、適切な言語行動を誘導しているかどうか検証を試みることを研究目的とする。また、本研究における「コミュニケーション能力」の定義は、Wiemman, Spitzberg, Cupach の定義を踏まえ、「相手の面子を保ちながら、効果的かつ状況・場面にふさわしいコミュニケーション行動を選択して目的をうまく達成させる能力」と定義する。

具体的に本研究で採り上げる事例は、先行研究において実際の言語使用では禁止の機能としては使用されていない可能性が明らかにされている「ないでください」である。初級教科書では、禁止表現として広く認知されている「ないでください」の導入にみられるように、禁止することが当然の権利として認められているような状況、関係性において、禁止するという表現意図と禁止の表現形式は一致している。そこで、本論では、「ないでください」を軸に、禁止することが当然の権利として認められる場面設定とその場面で発話されている文例を教科書から抽出し、教科書で想定された状況と同じ現実場面を研究対象に選択して、禁止するという表現意図が現実場面では実際にどのように言語化されているのかを調査し、教科書との比較考察を試みることにする。

## 1-2. 先行研究

禁止の場面における現実の言語表現に関する直接的な先行研究は管見の限り見当たらない。禁止表現に関する論考には中崎 (1999)、岡田 (1996) がある。いずれも街角の標識を取り上げて異文化間比較を考察したものであるが、実際の会話場面はとりあげていない。「写真撮影を禁ずる」場面と「駐車を禁止する」場面を取り上げ、各言語被験者数 30 名前後による 9 言語比較をした調査に橋元&異文化コミュニケーション研究会 (1992) がある。しかしながら、橋元の調査は質問紙法で実施されているため、調査結果と現実の言語使用との間に隔たりがある可能性がある。また、橋元の調査は、偶然会った親しい友人同士という状況設定で行われており、本研究で扱う「禁止することが当然の権利として許されている状況下」とは関係性が異なる。

また、教科書と実際の会話との比較研究に関する先行研究には、受身文を扱った迫田・西村 (1991)、断りを論考したカノックワン (1995)、否定的返答を取り上げたスコット・大原 (1999)、

感謝と詫びの表現を考察した小川（1995）、「つまらないものですが」を扱った清（2003）、コーパス研究による「～ないです」を考察した小林（2005）などがある。しかしながら、禁止表現に関しては、教科書と実際の会話との比較を論考した先行研究は見当たらない。

本論で事例研究として取り上げる「ないでください」に関する先行研究には、清（2004, 2005）がある。清（2005）では同一教材内における言語機能の一貫性の欠如が指摘されている。清（2004）ではシナリオ分析と一般社会人の言語意識調査により、一般の言語使用では「ないでください」は禁止表現としてはあまり使用されていない可能性が明らかにされている。しかしながら、清（2004）はシナリオと質問紙による分析であり、実態調査はなされておらず、禁止の場面における現実の言語表現がいかなるものかについては研究されていない。

以上のことから、本論では、先行研究で扱われなかった現実に遭遇する禁止の場面状況下での禁止表現の調査研究を行い、現実の言語使用と教科書とを比較することにした。

## 2. 方 法

### 2-1. 調査場面の選定

先行研究の清（2004, 2005）では、教科書分析に際し「ないでください」の言語機能を6つに分類しており、禁止としての機能は「話し手が管理・支配的立場にいたることが明らかな状況下において相手の望む行為や相手が無意識にしそうな行為を禁じる」と規定している。本研究は、この先行研究の規定に基づいて、「ないでください」が禁止として機能している場面を選択することにする。

まず、この規定に当てはまる教科書内の例文、会話文、文型、ドリルの場面を抽出し、教科書で想定されている場面に従って、調査する現実場面を限定することにした。研究対象教材としては、日本語教育専門書店凡人社における店頭販売・個人注文を除く国内外の日本語教育機関売上（1990年3月—2003年1月）ベスト8である『みんなの日本語』（以下『みんな』と記す）、『新日本語の基礎』（以下『新日本語』と記す）、『新文化初級日本語』（以下『新文化』と記す）、『実力日本語』、『Situational Functional Japanese』（以下『SFJ』と記す）、『初級日本語げんき』（以下『げんき』と記す）、『初級日本語新装版』、『Japanese for Busy People』（以下『Busy People』と記す）の8種で、その中から禁止の場面を抽出した。その結果、複数の教材に共通する禁止の場面として、医師が患者の行為を禁ずる場面、美術館員が写真撮影をしようとしている客を制する場面、駐車禁止のところに車をとめた者を制する場面の3場面が認められた。そのうち、駐車禁止の場面は現実的に禁止の発話行為者を得にくいという理由から除き、禁止の発話行為者が明確な医師と美術館員の2場面を実態調査対象にすることにした。調査対象とする2場面は、教科書から以下の通り抽出された結果に基づいて選択したものである。

医師の場合:

『みんな』例文「いいえ, 2, 3 日飲まないでください」(「先生, お酒を飲んでもいいですか」の応答として), 会話文「それから今晚はお風呂に入らないでください」

練習 C 「いいえ, 2, 3 日入らないで下さい」(下線部に 1) シャワーをあびます, 2) お酒を飲みます, 3) スポーツをします, の 3 種を代入練習)

『新文化』本文「治るまでお風呂に入らないでください. 激しい運動もしないでください」

4. 「2, 3 日, 消化の悪いものを食べないでください」

練習 D 「治るまで激しい運動をしないでください」 下線部に 1 おなかが痛い 冷たいものを食べない, 2 かぜをひいた お風呂に入らない, 3 下痢をした 消化の悪い物を食べない, の 3 種を代入練習

『実力日本語』文型練習 4 お医者さん → 病気の人 「絶対にお酒を飲まないでください」

看護婦さん → 病気の人 「絶対にお風呂に入らないでください」

美術館員の場合:

『みんな』文型「ここで写真を撮らないでください」

『新日本語』文型「写真を撮らないでください」

『実力日本語』文型練習 3 「ちょっと困ります. ここで写真を撮らないでください」

『SFJ』Strategies a. Official prohibition ② 館内で写真を撮らないでください.

『げんき』文法 3 「ここで写真を撮らないでください」

『Busy People』Exercises II 「しゃしんをとらないでください」

以上のように, 教科書では禁止の場面と禁止表現が一体化されて提出されているが, 現実の禁止の場面では, どのような表現がとられているのか, 教科書の表現と比較しながら分析する.

## 2-2. 調査方法

調査の詳細は以下の通りである.

[調査場所] 静岡県. 静岡県はマーケティングリサーチに最も適した県であるといわれている. 人口密度, 平均収入等が全国平均に近いこと, 地理的に日本の中心に位置すること, 太平洋沿いに東西に長く南北にも長いこと, 東, 中, 西 3 ブロックが, それぞれ, 関東寄り, 山間部寄り, 関西寄りの特色を有することなどがその理由である.

[調査期間] 医師の場合: 2005 年 1 月—2 月

美術館員の場合: 2005 年 3 月—4 月

[実施方法] 言語研究は質問紙法がよく用いられるが, 可能な限り現実を反映した自然な発話データを得たかったため, 以下のような実施方法をとった.

〔調査依頼数〕 医師の場合：東，中，西部各 25 名，計 75 名の看護師．

美術館員の場合：東，中，西部各 50（調査協力者 1 名につき 25 件ずつ）計 150．

医師の場合：パイロットスタディ段階で，自然発話サンプル収集の方法を探したが，プライバシー保護の関係で録音は許可されず，医師に発話の記憶呼び戻しを依頼したが，多忙な医師にとって正確な呼び起こしは不可能であることが判明した．そこで，医師と働く看護師の協力を得ることにした．看護専門学校，看護学科の教員の協力のもと，県下の内科，外科に勤務する現役看護師を紹介してもらい，医師の自然発話を発話直後に記録してもらうことにした．『みんなの日本語』143 ページ，第 17 課練習 C に医師と患者のイラストつきで，入浴・シャワー，お酒，スポーツの 3 種を禁ずる場面がある．このイラストをみせ，3 種に関連する禁止を医師が患者に対して発話した場合，初回のみメモをとってもらうよう依頼した．同一医師で，禁止する事項が 3 種のうち異なる発話があった場合はそれも初回のみ記録を依頼した．総合病院で同一科の担当医師が曜日により交代する場合は，医師別に記録してもらった．医師には発話を意識させないよう調査のことは知らせないことにした．この方法が，さまざまな制約の下，採取可能かつ自然発話データに最も近いサンプル採集方法であったため，このように実施した．後でメモ用紙を回収した．

美術館員の場合：調査協力者 6 名（20 代後半，院卒か院生，県東部，中部，西部各 2 名，男女各 1 名ずつ）に，デジタルカメラ持参で美術館（私設ギャラリーを含む）に行き，実際に美術館員の前でカメラを構えてもらい，その時受けた美術館員の注意発話を第一発話のみ，その場を去ってすぐに書き取ってもらった．自然発話を採取するために美術館員には調査のことは知らせなかった．パイロットスタディにおいて，調査協力者に小型テープレコーダを持たせ録音を試みたが，美術館員との距離があるため，必要な発話をマイクが拾わず聞き取ることが不可能であった．そこで，現実的にこの方法が自然発話データ採取に近いベストな方法であると判断し実施した．注意を受けずに写真を撮ることができた場合は調査数として数えない．協力者それぞれ 3 サンプルとれたところで集合し，サンプル採集上の問題点を整理し，方法を再確認して実施した．

なお，サンプルを第一発話のみとした理由は 2 つある．1 つ目の理由は，教科書において禁止表現が提出されているのが第一発話であるため，比較するには第一発話のみで十分であると判断したこと，2 つ目は，調査協力者が発話を正確に記憶にとどめられるのは第一発話までであることがパイロットスタディ段階で明らかになったことである．

本調査は，社会学の言語研究における事例研究法を用いている．事例研究法は，定量的でないという短所を持っている．しかしながら，佐藤（2001）は，言語研究に関して「定量的でないため論理性が弱い」などの批判があることについて，「言語研究で集められる調査資料はもともと統計学的に計算された調査方法とは違っている．（中略）一般に言語調査で求められるものは，高い精度ではなく，多くの人たちに広く支持されている意見や意識の抽出である」としている．また，

村田・山田（2000）は、「非確率標本による標本調査結果の一般性については、（中略）調査結果を事例研究の集積だと考える」としている。本調査は、以上のような考え方にに基づき、本調査結果が今後集積される事例研究の一端をなすものとして、事例研究法を用いるものである。

### 3. 分析方法

#### 3-1. 医師の場合

まず、回収したメモを看護師にみせた『みんなの日本語』練習 C に従って、禁止する事項別に、3 種（a, b, c）に分類した。

- a. 入浴関連 風呂 / シャワー / 入浴 / 髪を洗う
- b. 嗜好品(薬を含む) (お)酒 / ビール / アルコール(類) / 飲酒 / 冷たいもの / 消化の悪いもの / 刺激物 / タバコ / 熱いもの / 塩辛いもの / 甘いもの / おいしいもの / 油っこいもの / カロリーの高いもの / 肉類、特に内臓 / 臓モツ類 / カニとか貝とか青い魚 / 食事 / 朝食 / 朝ごはん / お茶 / 他の薬
- c. 体を動かす 過労 / 夜更かし / (車の)運転 / 船 / 細かいものを見る / 残業 / パソコン / 重いものを持つ / 仕事 / 外出 / 運動 / スポーツ / 水泳 / テニス / 走る / 部活 / 冷やす / 動く / ここ動かす / 手を使う / 階段の上り下り / 靴 / 歩く / これ〔ガード板のこと〕はずす

次に、サンプルにあらわれた後続の表現は以下の d から j の 7 つに分類し、発話の表現形式によりラベリングをした。( )内はサンプルによりついたりつかなかったりするものである。d, e の「心積もり」とは、患者の心の準備をさす。また、j の「V ないでください」は、サンプルには表れなかったが、教科書文例との比較を視覚化するため、表現形式に含めた。

- d. 心積もり依頼表現 やめといて(ください) / よしといて(ください)
- e. 心積もり誘発表現 やめときましょうか / やめとこうか / やめれるら / 控えましょうか / 我慢しましょうか / 我慢できます / よしとこうか / 入らんでもええら
- f. あたかも依頼表現<sup>1</sup> V ないでもらえますか / V ないでいただけますか / やめてもらえますか / 我慢してもらえますか / 控えてもらえますか / よしといてくれる? / よしといてもらってもいい?
- g. 助言表現 やめといた方がいい(です) / やめた方がいいです / よしといたら? / おやめになった方がいい(でしょう / と思います / かもしれません)

<sup>1</sup> 蒲谷（1998）により命名された「あたかも表現」の中の依頼表現。蒲谷によれば、「あたかも表現」とは、本来は自分にある決定権をあたかも相手にあるかのようにすること、本来は相手にある利益をあたかも自分にあるようにするといった丁寧さの原理である。

- h. 肯定依頼表現 我慢してください / 控えてください / 避けてください
- i. 断定宣告表現 だめです / だめだら / 無理です / まずい(です) / 当分ご法度
- j. 否定依頼表現 V ないようにしてください / V ないでください

言語表現の種類は以下の通りである。「よ」「ね」「な」などの終助詞は除いた。接続助詞「も」(例: 風呂も), 副助詞「ぐらい」(例: 風呂ぐらい)も除いた。また, 「あの」や「えと」のような話しかけの合図, 文末の言いよどみなどは禁止表現の分類上は直接関わっていないため除き, 直接表現形式に関わるところのみ分類した。

a. 入浴関連の場合

- a + d (例: 風呂はやめといてください。)
- a + e (例: 風呂はやめときましょうか。)
- a + f (例: 風呂は入らないでもらえますか。)
- a + g (例: 風呂はやめといたほうがいいです。)
- a + h (例: 風呂は我慢してください。)
- a + i (例: 風呂はだめです。)
- a + j (例: 風呂は入らないでください。)

b. 嗜好品(薬を含む)の場合

- b + d (例: アルコールはやめといてください。)
- b + e (例: アルコールはやめときましょうか。)
- b + f (例: アルコールは飲まないでもらえますか。)
- b + g (例: アルコールはやめといたほうがいいです。)
- b + h (例: アルコールは我慢してください。)
- b + i (例: アルコールはだめです。)
- b + j (例: アルコールは飲まないでください。)

c. 体を動かすの場合

- c + d (例: 運動はやめといてください。)
- c + e (例: 運転はやめときましょうか。)
- c + f (例: 外出は控えてもらえますか。)
- c + g (例: 船はやめといたほうがいいです。)
- c + h (例: 過労は控えてください。)
- c + i (例: テニスはむりです。)
- c + j (例: 重いものを持たないようにしてください。)

### 3-2. 美術館員の場合

まず、すべてのサンプルに現れる謝罪および呼びかけの表現は、a とした。後続の表現は b から h に分類した。終助詞は除いた。また、話しかけの合図、文末の言いよどみなどは禁止表現の分類上は直接関わっていないため除き、直接表現形式に関わる場所のみ分類した。組み合わせの型をみた結果、10 の型が得られた。そのうち同じ表現であるが順序が異なるものは下位分類し、合計 13 種類が得られた。( )内はサンプルによりついたりつかなかったりするものである。

- a. 謝罪および呼びかけ すいませんけど / すいませんが / 申し訳ないですが / 申し訳ありませんが / 悪いですけど / 悪いですが / 恐れ入りますが / 大変申し訳ございません
- b. 禁止理由に言及 規則に関する事実陳述以外で  
貴重なものだもので / (ここは)お預かりしてる品だもので / (これは / この催しは)うちの所蔵品でない / (今回の展示は / この階は)特設展でして / (こちらは / これらは)委託品なので / (これらは / この催しは / この展示は)他から借りてきてるものなので / 作品に光がよくないもので / フラッシュが劣化をさせてしまうものですから / (当館は)古いものなので / できるだけ長くこのまま保存したいものですから
- c. 規則に関する事実陳述 当館の決まりでして / 撮影は禁止されてるんです / 撮影禁止になっているんです / 撮るのは禁止されてるんです / 写真はご遠慮いただくことになっています
- d. 禁止対象物に言及 (規則に関する事実陳述以外で)  
カメラは / カメラに収めることは / 撮影は / 写真は / 写真撮影は
- e. 不可能表現 できないんです / だめなんです / とれないんです / 写せないんです / 撮ってもらえないんです / 撮っていただけないんです
- f. 代替案提示 あちらなら大丈夫ですけど / あちら側は撮っていただいてもいいですが / 下の階はかまわないですが / 常設のものでしたらいいですが / ケースの中ならお撮りいただけるんですが / 庭でしたらかまわないんですけど / 建物はよろしいんですが / 外のコーナーならお撮りいただいてもかまわないんですが / うちのだったらかまわないんですけど
- g. 同情表示 本当は撮ってもらいたいんですけど / お気持ちはよくわかるんですが / きれいだから残しておきたいというのはわかるんですけど
- h. 依頼表現 撮影禁止にご協力ください(ませんか) / 写真撮影禁止にご協力をお願いします / 大切なものの保管にご協力をお願いいたします / ご協力をお願いしたいんですが / ご理解をお願いできますか / ご理解をお願いします

## 言語表現の型:

- 1) b + a 型: (例; 作品に光がよくないもんですから, すいませんけど。)
- 2) ① a + b + e 型: (例; すいませんけど, この催しは, うちの所蔵品でないので, とれないんです。)
- ② b + e + a 型: (例; これらは, 他から借りてきてるものなので, だめなんです, すいませんけど。)
- 3) a + f + b 型: (例; すいませんけど, あちら側はとっていただいてもいいんですが, ここは, お預かりしてる品だもので。)
- 4) ① a + b + g 型: (例; 申し訳ないですが, 他から借りてきてるものなので, 本当はとってもらいたいんですけど。)
- ② b + a + g 型: (例; うちの所蔵品でないので, 申し訳ありませんが, お気持ちはよくわかるんですが。)
- 5) a + h + b 型: (すいませんけど, 撮影禁止にご協力ください。貴重なものだもんで。)
- 6) ① a + d 型: (例; すいませんが, カメラは。)
- ② d + a 型: (例; 写真は, すいませんが。)
- 7) a + d + e 型: (例; 申し訳ないですが, 写真は, とれないんです。)
- 8) a + c 型: (例; すいませんけど, 撮影は禁止されてるんです。)
- 9) a + c + h 型: (例; 申し訳ないですが, 撮影禁止なんです。ご理解をお願いします。)
- 10) a + h 型: (例; すいませんが, 撮影禁止にご協力ください。)

## 4. 調査結果

## 医師の場合:

内科, 外科の区別は看護師に書き込んでもらったが, 科別の集計は出さなかった。地域差が著しく, 地方の個人医院の場合, 内科医であっても外科的疾患を診ているケースも多々あったためである。また, 医師には調査について伝えていないため, 性別, 年齢別などの属性別データは出していない。

〔調査結果〕 医師数; 東 30, 中 28, 西 34 計 92 名

病院数; 東 18, 中 19, 西 23 計 60

採取サンプル数; 東 35, 中 39, 西 47 計 121

3. で述べた分析分類の結果, a は東 9, 中 13, 西 9 で合計 28, b は東 16, 中 17, 西 11 で合計 44, c は東 13, 中 9, 西 27 で合計 49 だった。a, b, c の 3 種と後続表現の組み合わせ別に集計し, a, b, c それぞれの合計数を 100% としてグラフであらわしたものが表 1 である。

表1 医師の場合

| 型   | 例                   | 地 域 別 数<br>a(東6 中13 西9 計28)<br>b(東16 中17 西11 計44)<br>c(東13 中9 西27 計49) | グ ラ フ<br>東部 ■ 中部 ▨ 西部 ■ |
|-----|---------------------|--|-------------------------|
| a   |                     |  | 0% 50% 100%             |
| a+d | 風呂はやめといてください。       | 東 2<br>中 4<br>西 2<br>計 8   |                         |
| a+e | 風呂はやめときましょうか。       | 東 1<br>中 5<br>西 3<br>計 9   |                         |
| a+f | 風呂は入らないでもらえますか。     | 東 2<br>中 4<br>西 3<br>計 7   |                         |
| a+g | 風呂はやめといたほうがいいです。    | 東 0<br>中 1<br>西 0<br>計 1   |                         |
| a+h | 風呂は我慢してください。        | 東 1<br>中 1<br>西 1<br>計 3   |                         |
| a+i | 風呂はだめです。            | 東 0<br>中 0<br>西 0<br>計 0   |                         |
| a+j | 風呂は入らないでください。       | 東 0<br>中 0<br>西 0<br>計 0   |                         |
| b   |                     |  |                         |
| b+d | アルコールはやめといてください。    | 東 4<br>中 3<br>西 2<br>計 9   |                         |
| b+e | アルコールはやめときましょうか。    | 東 5<br>中 4<br>西 3<br>計 10  |                         |
| b+f | アルコールは飲まないでもらえますか。  | 東 3<br>中 4<br>西 3<br>計 10  |                         |
| b+g | アルコールはやめといたほうがいいです。 | 東 2<br>中 2<br>西 0<br>計 4   |                         |
| b+h | アルコールは我慢してください。     | 東 2<br>中 3<br>西 1<br>計 6   |                         |
| b+i | アルコールはだめです。         | 東 0<br>中 1<br>西 2<br>計 3   |                         |
| b+j | アルコールは飲まないでください。    | 東 0<br>中 0<br>西 0<br>計 0   |                         |
| c   |                     |  |                         |
| c+d | 運動はやめといてください。       | 東 3<br>中 2<br>西 4<br>計 9   |                         |
| c+e | 運転はやめときましょうか。       | 東 2<br>中 1<br>西 4<br>計 7   |                         |
| c+f | 外出は控えてもらえますか。       | 東 1<br>中 0<br>西 2<br>計 3   |                         |
| c+g | 船はやめといたほうがいいです。     | 東 3<br>中 2<br>西 8<br>計 13  |                         |
| c+h | 過労は控えてください。         | 東 2<br>中 2<br>西 5<br>計 9   |                         |
| c+i | テニスはむりです。           | 東 1<br>中 1<br>西 2<br>計 4   |                         |
| c+j | 重いものを持たないようにしてください。 | 東 1<br>中 1<br>西 2<br>計 4   |                         |

美術館員の場合:

〔調査結果〕 サンプル数; 東, 中, 西 50

美術館員には調査について伝えていないため, 性別, 年代別などの属性別結果は出していない.

3. で述べた分析分類の集計結果が表 2 である.

表 2 美術館員の場合

| 型  | 構成順   | 例  | 地域別数<br>(各地域 50<br>計 150)   | グ ラ フ<br>0% 50% 100% |
|----|-------|--|-----------------------------|----------------------|
| 1  | b+a   | 作品に光がよくないもんですから、すいませんけど。                       | 東 5<br>中 4<br>西 4<br>計 13   |                      |
| 2  | a+b+e | すいませんけど、この催しは、うちの所蔵品でないので、とれないんです。             | 東 4<br>中 5<br>西 6<br>計 15   |                      |
|    | b+e+a | これらは、他から借りてきてるものなので、だめなんです、すいませんけど。            | 東 3<br>中 2<br>西 2<br>計 7    |                      |
| 3  | a+f+b | すいませんけど、あちら側は取っていただいてもいいんですが、ここは、お預かりしてる品だもので。 | 東 5<br>中 6<br>西 8<br>計 19   |                      |
| 4  | a+b+g | 申し訳ないですが、他から借りてきてるものなので、本当はとってもらいたいんですけど。      | 東 1<br>中 0<br>西 0<br>計 1    |                      |
|    | b+a+g | うちの所蔵品でないので、申し訳ありませんが、お気持ちはよくわかるんですが。          | 東 0<br>中 1<br>西 1<br>計 2    |                      |
| 5  | a+h+b | すいませんけど、撮影禁止にご協力ください。貴重なものだもので。                | 東 1<br>中 0<br>西 0<br>計 1    |                      |
| 6  | a+d   | すいませんが、カメラは…。                                  | 東 9<br>中 11<br>西 9<br>計 29  |                      |
|    | d+a   | 写真は、すいませんが。                                    | 東 8<br>中 10<br>西 11<br>計 29 |                      |
| 7  | a+d+e | 申し訳ないですが、写真は、取れないんです。                          | 東 10<br>中 8<br>西 7<br>計 25  |                      |
| 8  | a+c   | すいませんけど、撮影は禁止されてるんです。                          | 東 2<br>中 1<br>西 1<br>計 4    |                      |
| 9  | a+c+h | 申し訳ないですが、撮影禁止なんです。ご理解をお願いします。                  | 東 1<br>中 1<br>西 0<br>計 2    |                      |
| 10 | a+h   | すいませんが、撮影禁止にご協力ください。                           | 東 1<br>中 1<br>西 1<br>計 3    |                      |

## 5. 考 察

医師の場合、美術館員の場合、いずれも「ないでください」を使用した直接的な禁止表現は 1 例もみられない。

表 1 の医師の場合をみると、禁止する事項により、後続の表現が変わる傾向がみられる。a の入浴関連において 85.7% を占める心積もり依頼表現 d、心積もり誘発表現 e、あたかも依頼表現 f の合計は、医師の患者に対する共感度の高さを示す表現と言えるが、b、c においては、それぞれ 70.5%、38.8% と、徐々にその使用率が低下している。入浴やシャワーのように患者の生命を危機にさらす率が低い事項の場合は、共感性が高く丁寧度の高い表現が使用され、b、c のように患者の疾患によっては強く禁じなければ患者の生命を脅かすような場合は、使用率が低くなっているのではないだろうか。このことは、肯定依頼表現 h、断定宣告表現 i、否定依頼表現 j などの強制力のある表現の使用率をみても裏付けられる。h、i、j の合計が a では 10.7% と低いが、b は 20.5%、c においては 34.7% と、患者にとって致命的な不利益になる事項ほど使用率が高くなっている。

否定依頼表現 j の表現が使用されたのは c の場合のみであった。この 4 例は、「重いものを持たないようにしてください」「これ、はずさないようにしてください」「動かさないようにしてください」「冷やさないようにしてください」であり、いずれも外科か内科における外科的処置のケースである。これは、医師の制する行為を患者がした場合、著しく患部に打撃を与える危険性があるからではないか。教科書においては、前述したように、内科の患者に対して「ないでください」が使用されているが、本調査では、外科の処置においても「ないでください」の使用は 1 例もみられず、「ないようにしてください」4 例にとどまった。

医師が患者の行為を制するのは、患者のためであるが、あたかも依頼表現 f の使用が全体の 16.5% あるのに比べ、直接的表現が全くみられないことは、医療をサービスとみなし、「患者」を「患者様」と呼ぶ病院が増えたことなどが背景にあるのではないかと推察する。読売新聞日本語取材班（2005）によると、厚生労働省の医療サービス向上委員会は、2001 年に「国立病院等における医療サービスの質の向上に関する指針」を出し、当時の国立病院に「患者の呼称の際、原則として、姓(名)に『様』を付けること」を求めたという。これを民間病院も取り入れ、「患者様」が流行したとみられている。本調査で直接的表現がみられないのは、このような動向により、医師の言語表現にも患者に対する配慮が反映しているからではないだろうか。

表 2 の美術館員の場合の結果をみると、100% の美術館員が a の謝罪および呼びかけ表現を使用している。このことから、注意することが当然の権利である状況下であっても謝罪および呼びかけ表現は必ず使用されるということが窺える。また、規則に関する事実陳述以外の禁止理由に言及した b を含むケースも、1 から 5 まで約半数の 48.3% あった。さらに、この b を含むケー

ス中、代替案を提示した3の型は3分の1ある。相手が納得しやすい理由を付け加えることによって相手の行為を制したり、代替案を提示することで肯定的な表現に変換させたりすることにより、相手の面子を傷つけないための配慮がなされている。

特に目立ったことは、1, 3, 4, 6の型のように、動詞を使用せずに文を中断させた表現形式が62%あったことである。言い切らずに相手に行動変容を促すことによって、丁寧度の高さを表していると思われる。とりわけ、6の型にみられるような謝罪と対象物のみの言語表現がそのうちの48.3%を占めることから、現実の場面においては、聞き手が規則やマナーを犯し話し手が注意することを当然の権利として有している場合においても、直接的な表現を避け、相手に「察し」を求めていることが窺える。本研究では、非言語メッセージは調査の対象にしていないが、おそらく、パラ言語、顔の表情、ジェスチャーなどの非言語メッセージで理解を促しているのではないだろうか。

動詞を使用した表現は2, 7の型にみられるように31.3%と約3分の1あった。ここで使用されている動詞表現は、「とれない」という写真を撮る立場に立っての不可能表現と、「撮ってもらえない」「撮っていただけない」などの撮ることを制する立場からの恩恵表現の不可能表現である。直接的な禁止表現を回避して、相手に心情的に共感を示し、希望に添いたい添うことができないことを残念に思っているかのように解釈し得る表現を使用することによって、権利者の攻撃性をうち消している。hの依頼表現を使用し協力要請するケースは6例、cの規則に関する事実陳述は4例と、いずれも全体の0.04%以下である。協力を要請しながらも「禁止」という表現を使用することは、直接的であるため回避しているという解釈ができるのではないだろうか。

## 6. 結 論

5.で考察したように、本事例研究に関する限り、医師と美術館員による禁止の場面では、教科書でみる「ないでください」という直接的な禁止表現の使用は認められなかった。禁止することが患者にとって利益になるような状況下で管理権を有する医師が発する禁止であっても、患者の疾患上致命的なケースでない限りは共感性の高い表現が使用されていた。また、禁止することが当然であり、放置すればマナー違反になるばかりか陳列物に害を及ぼすような状況下で注意する美術館員もまた、謝罪および呼びかけ表現を必ず使用し、相手の面子を傷つけないよう配慮しつつ心情的に共感を示す表現を選択していた。

さらに、先行研究の清(2004)において「ないでください」が禁止の機能として実際には使用されない可能性が明らかにされていたが、少なくとも静岡県を対象とした本事例研究に関する限りにおいては、それが実証された。

## 7. おわりに

本事例研究から得た知見は、今後、コミュニケーション能力を育成するための指導の方向性、教材開発に活かすことが可能ではないかと思われる。0, 1. で論じたように、日本語教育界では、コミュニケーション・アプローチを志向し、現実の言語機能を学習項目化することが求められて久しい。しかしながら、本研究の事例調査で対象とした医師と美術館美術館員に関する限り、「ないでください」が禁止の機能として学習項目に挙げられている現行の教材は適切だとは言えない。1. において、コミュニケーション能力を「相手の面子を保ちながら、効果的かつ状況・場面にふさわしいコミュニケーション行動を選択して目的をうまく達成させる能力」と定義したが、本事例研究では、医師も美術館員も相手の面子を保つことを重視した言語表現をとっていることが明らかになった。従って、コミュニケーション能力を育成するという教育目的を鑑みれば、相手を制する場面においては、話し手が管理・支配的立場にいることが明らかな状況下においてさえ配慮表現が使用されるということを教材化し、教えていく必要があるのではないだろうか。

本論は静岡県という一県における一事例研究にすぎない。禁止の場面において、いかなる言語表現がとられているのかを探るためには、さらに多くの調査対象地を得て複数の事例研究を重ね、実証データを集めなければならない。また、本論で取り上げた禁止の場面は、医師と美術館員の場合に限られていた。今後は、さらに別の状況下での禁止の場面における言語表現を考察していく必要がある。

## 参 考 文 献

- 石井 敏 (1987) 「対人関係と異文化コミュニケーション」, 石井 敏・岡部朗一・久米昭元編著『異文化コミュニケーション』, 有斐閣.
- 市川保子 (1989) 「コミュニケーション・アプローチの中での文法のあり方——教科書作成を通して——」『日本語学』8月号 (67-77 頁), 明治書院.
- 岡崎敏雄・岡崎 眸 (1990) 『日本語教育におけるコミュニケーション・アプローチ』, 凡人社.
- 岡崎敏雄・川口義一・才田いずみ・畠弘巳編著 (1992) 『ケーススタディ日本語教育』, おうふう.
- 岡田安代 (1996) 「街角にみる「禁止」の談話分析——コミュニケーション方略の異文化間比較のための考察——」『愛知教育大学研究報告 45 (教育科学編)』, 愛知教育大学, 149-154.
- 小川治子 (1995) 「感謝と詫びの定式表現——母語話者の使用実態の調査からの分析——」『日本語教育』85号, 日本語教育学会, 38-52.
- カノックワン・ラオハプラナキット (1995) 「日本語における断り——日本語教科書と実際の会話との比較——」『日本語教育』87号, 日本語教育学会, 25-39.
- 蒲谷 宏・川口義一・坂本 恵 (1998) 『敬語表現』, 大修館書店.
- 小林ミナ (2005) 「日常会話にあらわれた「～ません」と「～ないです」」『日本語教育』125号, 日本語教育学会, 9-17.
- 迫田久美子・西村浩子 (1991) 「コミュニケーションを重視した受け身文の指導法の研究」『日本語教育』73号, 日本語教育学会, 73-88.

- 佐藤和之(2001)「意識調査と計量的研究」『日本語の計量研究法』日本語学臨時増刊号, 明治書院, 42-55.
- スコットサフト・大原由美子(1999)「日本語における否定的返答とコンテキストについて」『言語学と日本語教育——実用的言語理論の構築を目指して』, くろしお出版, 213-227.
- 清 ルミ(2003)「つまらないものですが考——実態調査と日本語教科書の比較から——」『異文化コミュニケーション研究』15号, 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所, 17-40.
- (2004)「コミュニケーション能力育成の視座から見た日本語教科書文例と教師の“刷り込み”考——「ないでください」を例として——」『異文化コミュニケーション研究』16号, 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所, 1-24.
- (2005)「コミュニケーション能力は育つか——「禁止表現」から見た日本語教材——」『スピーチ・コミュニケーション教育』18号, 日本コミュニケーション学会, 41-54.
- 谷口すみ子(2001)「日本語教育とは何か」, 青木直子・尾崎明人・土岐 哲編『日本語教育を学ぶ人のために』, 世界思想社.
- 中崎温子(1999)「「禁止 / 不許可」 揭示・標識表現の日・英対照分析」『北陸大学紀要』第23号, 北陸大学, 179-189.
- 日本語教育学会(1991)「〔特集〕コミュニケーション・アプローチをめぐる」『日本語教育』73号(1-126頁), 日本語教育学会.
- 日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議報告(2000)『日本語教育のための教員養成について』, 文化庁.
- ハウエル S. W.・久米昭元(1992)『感性のコミュニケーション』, 大修館書店.
- 橋元良明 & 異文化コミュニケーション研究会 '91(1992)「婉曲的コミュニケーション方略の異文化間比較——9言語比較調査——」『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』1号, 東京大学, 107-159.
- 畠 弘巳(1989)「コミュニケーションのための日本語教育——常識としてのコミュニケーションアプローチ」『日本語学』8月号(76-94頁), 明治書院.
- 村田光二・山田一成(2000)『社会心理学研究の技法』, 福村出版.
- 読売新聞日本語取材班(2005)『新日本語の現場 第3集』橋本五郎監修, 中公新書.
- Breen, M. & Candlin, C. M. (1980) The essentials of a communicative curriculum in language teaching. *Applied Linguistics*, 1 (2), 89-112. London: Oxford University Press.
- Brumfit, C. J. & Johnson, K. (Eds.) (1979) *The communication approach to language teaching*. London: Oxford University Press.
- Canale, M. (1983) From communicative competence to communicative language pedagogy. In J. C. Richards & R. W. Schmidt (Eds.) *Language and communication* (pp. 2-28). Harlow, Essex: Longman.
- Canale, M. & Swain, M. (1980) Theoretical basis of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1 (1), 1-47. London: Oxford University Press.
- Hymes, D. (1972) On communicative competence. In J. B. Pride & J. Holmes (Eds.) *Sociolinguistics*, 269-293. Harmondsworth, UK: Penguin Books.
- Johnson, K. & Morrow, K. (Eds.) (1981) *Communication in the classroom*. London: Longman.
- Littlewood, W. (1981) *Communicative Language Teaching*. Cambridge University Press.
- Spitzberg, B. H. & Cupach, W. R. (1984) *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage Publications.
- Wiemann, J. M. (1977) Explication and test of a model of communicative competence. *Human Communication Research*, 3, 195-213. Newbury Park, CA: Sage Publications.
- Wilkins, D. A. (1976) *National Syllabuses*. London: Oxford University Press.

[分析対象教材]

教材

AJALT (1995) *Japanese for Busy People I, II kana version*, Kodansha International.

海外技術者研修協会編著 (1990) 『しんにほんごのきそ I, II 本冊 漢字かなまじり版』, スリーエーネットワーク.

スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語 初級 I, II 本冊』, スリーエーネットワーク.

筑波ランゲージグループ (1991) *Situational Functional Japanese: notes* Vol. 1~3, 凡人社.

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (1999) 『実力日本語(上)』, アルク.

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (2000) 『実力日本語(下)』, アルク.

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (1994) 『初級日本語 新装版』, 凡人社.

坂野永理・大野 裕・坂根庸子・品川恭子 (1999) 『初級日本語 げんき』, The Japan Times.

文化外国語専門学校編 (2000) 『新文化初級日本語 I, II』, 文化外国語専門学校.